

2006年（平成18年）

- ・ 札幌初代音楽監督岩城宏之氏ご逝去
- ・ 札幌くらぶコンサート中断へ
- ・ 全国音楽ボランティア札幌フォーラムに参加
- ・ 日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOF C）設立会議開催

岩城宏之氏ご逝去

5月13日に、札幌初代音楽監督、終身桂冠指揮者を務められた岩城宏之さんがお亡くなりになりました。



札幌桂冠指揮者岩城宏之さん

岩城さんは1975(昭和50)年10月に札幌正指揮者となり、1978(昭和53)年10月から1988(昭和63)年3月まで札幌の初代音楽監督となり、1988年4月からは桂冠指揮者となり、30年間にわたり札幌を育て見守ってこられました。

ペーター・シュバルツ氏の後任として札幌に来られてからは、どちらかというドイツ音楽に偏る傾向の強かった札幌に、現代作曲家や日本人作曲家の作品を積極的に取り上げてイメージチェンジを図り、1976(昭和51)年12月のオール武満徹作品による札幌定期演奏会は、音楽愛好家の間に大きな驚きを与え、今も伝説的に語り継がれています。

1985(昭和60)年4月には、黒澤明監督の「乱」のサウンドトラックを、札幌・岩城によって千歳市民文化センターで収録、世界的に札幌が注目されるきっかけとなりました。

これも作曲者の武満さんの、岩城札幌への強い信頼から生まれたものでした。

晩年は、オーケストラ・アンサンブル金沢の誕生と育成で世界的な評価を受けましたが、亡くなるまで札幌と深く関わり、愛し続けてこられました。

札幌くらぶコンサート中断へ

7年続けて開催されてきた札幌くらぶコンサートが実質的に中断することになりました。

札幌くらぶ主催で札幌が協力するという形で始まり、前年からは札幌くらぶと札幌の共催という形で何とか継続してきましたが、8回目のこの年は、独立した札幌くらぶコンサートという形はとれず、札幌の自主公演「アキラさんの大発見コンサート」を札幌くらぶ会員に対してのみ「札幌くらぶコンサート」としてチケットの斡旋を行うことになり、実質的に札幌くらぶコンサートは中断することになりました。

札幌くらぶコンサートについては、スタッフ内でも、大きなコンセプトであった「次世代の札幌ファン創出」については、上田会長が札幌市長選に出馬した際の公約であった「ファースト・コンサート」(小学6年生全員にギターで札幌を鑑賞させる)が定着したりし、もうその使命は終わったのではないか、という意見が大きくなっていました。

しかし、何といたっても札幌くらぶが手作りで始めたコンサートであり、会員に対する一大イベントでもあるので、早期に再開する道を求めていくことになりました。

全国音楽ボランティア札幌フォーラムに参加

7月29日から31までの3日間、全国音楽ボランティア札幌フォーラムが開催され、札幌響くらぶも参加しました。

札幌響くらぶが参加したのは、31日にホテルライフオート札幌で行われたメインのフォーラムでした。札幌響くらぶは第2分科会「オーケストラを支援するボランティア」に参加し札幌響コンサートマスターの大平まゆみさんと西川札幌響くらぶ副会長が座長を務めました。全国から参加された方々と貴重な意見交換を行い、札幌響くらぶスタッフの数人が意見発表をしました。

その後の全体会では、大平さんが第2分科会を代表してパネリストになられ、音楽活動を支えるボランティアのあり方について多くのことを学びました。

J O F C 設立会議開催

前年、札幌響くらぶ西川事務局長（当時）の提案によって採択された「山形宣言」に基づき、札幌響くらぶが中心となって新たな組織作りを進めてきましたが、その名称を「日本プロオーケストラファンクラブ協議会（略称J O F C）」とすることになり、その設立会議が11月11日、キタラ2階の大会議室で開催されました。今回は「設立総会」とはせず、年度の総会は次年度を第1回として行うこととしました。

この会議には札幌響くらぶの他に、仙台フィルハーモニッククラブ、山響ファンクラブ、群響を応援する県民の会、広響フレンズの各ファンクラブが参加しました。

会議は上田札幌響くらぶ会長の歓迎の挨拶に始まり、鈴木美保札幌響くらぶ副会長を議長に選出して議事に入りました。最初に西川札幌響くらぶ副会長から「協議会会則（案）」が提案され、全会一致で承認されました。

次に会則に則って役員選出を行い、会長に

上田札幌響くらぶ会長、副会長に工藤S P C会長と加藤山響ファンクラブ会長が選出されました。また、会長指名の幹事長に西川札幌響くらぶ副会長が指名され承認されました。

指名されたばかりの西川幹事長から、次年度の第1回総会を仙台市で行うという提案がなされ、承認されました。最後に上田会長の「ここに、日本プロオーケストラファンクラブ協議会を設立したことを宣言させていただきます。」という力強い宣言で、設立会議を終了しました。

思えば、厳しい環境に置かれている日本のプロオーケストラが、どれほど日本の音楽文化に大きく貢献しているかをアピールし、ファンの立場から支援・応援し、将来的には社会的にも大きな発言力を持つ組織を作りたい、という札幌響くらぶの思いから始まった組織作りが、今はささやかな組織ながら、とにかく船出に漕ぎつけたという感慨が札幌響くらぶスタッフ全員の思いでした。

会議終了後、テラスレストラン・キタラで交流会が開催され、尾高札幌響音楽監督ご夫妻や札幌響コンサートマスター大平まゆみさんなども参加され、和やかな雰囲気の中でJ O F Cの発足を祝いました。



設立会議参加者



設立会議

◎この年「札幌響くらぶ」に登場した人
尾高忠明（札幌響音楽監督）
伊藤亮太郎（札幌響コンサートマスター）
佐々木倫子（Vn）、武藤厚志（Perc）
遠藤幸雄（Va）、大森潤子（Vn）